

令和7年度 研究の概要

白井市立白井第一小学校

1 研究主題

学びに喜びを感じられる児童の育成
～表現活動の工夫を通して～

2 主題設定の理由

(1) 国語科の目標から

学習指導要領に示されている国語科の目標は、以下の通りである。

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉のもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

教科の目標では、まず、国語科において育成を目指す資質・能力を国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力とし、国語科が国語で理解し表現する言語能力を育成する教科であることを示している。

学習指導要領の改訂において示す国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力とは、国語で現された内容や事柄を正確に理解する資質・能力、国語を使って内容や事柄を適切に表現する資質・能力であるが、そのために必要となる国語の使い方を正確に理解する資質・能力、国語を適切に使う資質・能力を含んだものである。

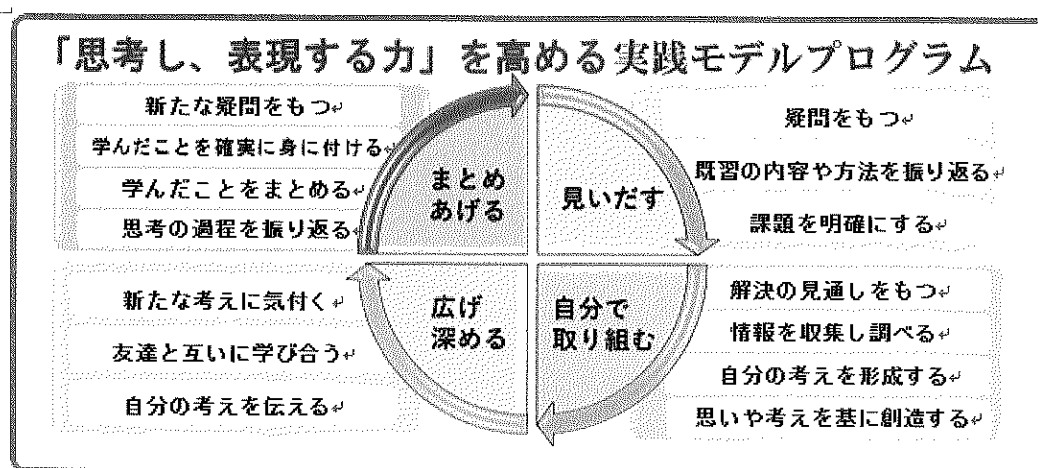
正確に理解する資質・能力と、適切に表現する資質・能力とは、連続的かつ同時的に機能するものであるが、表現する内容となる自分の考えなどを形成するためには国語で表現された様々な事物、経験、思い、考え等を理解することが必要である。

また、言語能力を育成する中心的な役割を担う国語科においては、言語活動を通して資質・能力を育成する。言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成するとしているのは、この考え方を示したものである。

(1) 千葉県の小学校教育過程の展開から

『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム』の活用

『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム（以下 実践モデルプログラム）は、「物事を筋道立てて考える思考力」「自分の考えを書いたり、発表したりする表現力」の育成を目指すための授業づくりを支援するものとして作成された。令和元年度には、「主体的・対話的で深い学び」の視点に加え、新しい実践プログラムとして改訂された。



授業を実践する前に、資質・能力を身に付けた児童の具体的な姿を描き、本時（本単元）の目標を明確にもち、必要となる学びについて考え、実践プログラムから児童の学習活動例を選び出し、「見いだす」「自分で取り組む」「広げ深める」「まとめあげる」を意図的・計画的に位置付けていく。

本校の算数科研究においても実践モデルプログラムを授業展開に取り入れ、児童の思考力や表現力の向上を目指していく。

（３）白井市学校教育「なしビジョン」から

- 1 持続可能な社会の創り手
- 2 確かな学力
 - （１）子どもの内面にスポットをあて、
「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくり
 - （２）ICT活用方法の積極的な開発
- 3 豊かな心
 - （３）「やる気」を引き出す生徒指導の推進
 - （４）豊かな人間関係を育む学級づくり
- 4 健やかな体
 - （５）「活力」を高める体育活動の創造
 - （６）自他の命を尊ぶ健康・安全教育の推進
 - （７）全校体制による特別支援教育の推進



白井市学校教育「なしビジョン」が

コンセプトとして掲げている「持続可能な社会

の創り手」とは、学習指導要領総則の改訂の経緯において、その多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待されるとある。子どもたちが予測困難な時代を生きていくためには、小学校において確かな学力を育んでいかなければならない。「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりを通して、それを実現していくことが必要である。

(2) 学校教育目標と本校の児童の実態から

1 学校教育目標

ふるさと白井を担う、心豊かで確かな学力を身につけた、
たくましい子どもの育成

〈めざす児童像〉

- ・自らを伸ばそうとする子
- ・よく考えともに学ぶ子
- ・やさしく思いやりのある子
- ・健康でたくましい子

〈めざす学校像〉

- ・明るく楽しい学校
- ・安全できれいな学校
- ・地域とともに歩む学校

〈めざす教師像〉

- ・質の高い授業を追求する教師
- ・子どもの良さをほめる教師
- ・組織で対応する教師

2 経営方針

本校の歴史と伝統を大切にし、児童・保護者・地域から信頼される教育活動の展開

3 本年度の経営の重点

① 学習指導の改善

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現
- ・ICT 活用の推進（協働学習）
- ・評価を改善に繋げる工夫
- ・読書活動の推進
- ・家庭学習の習慣化
- ・特別支援教育の充実

本校では、学習指導要領や千葉県教育課程の展開、白井市学校教育なしビジョン」を受けて左記のように学習指導の改善を学校教育目標に掲げている。

白井市ふり回りナビゲーション（R eナビ）や全国学力学習状況調査の結果から、本校の児童は読んで理解する力と表現する力に大きな課題があることが分かる。そんな児童の実態を鑑みると、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指すに

あたり、自ら考え、表現する活動に焦点をあてた教育活動の工夫を研究していく必要がある。

以上（1）～（4）踏まえて、研究主題を設定した。

2 研究仮説と内容

【仮説1】

それぞれの考えを出し合いながら、文章をつかむ場を設定すれば、読みが深まり、学ぶ喜びを味わうことができるだろう。

・読み取りにおけるペア・グループ活動の設定

文章を読み取る段階で児童同士が対話をする機会を設定することで、表現活動につながる読み取りをさせていく。分からないところを理解したり、より深く読み取ったりなど、表現活動を行うために不可欠である読みの充実を、対話をもって実現していく。児童同士のみでなく、必要に応じて指導者を交えた個・小集団・全体の対話も取り入れ、作品世界に迫っていく。

表現物についても児童同士が交流する場を設定することで、他者の考えに触れる機会を設け、多様な解釈に触れながら読みを深めることができるようにしていく。

【仮説2】

児童が読み取ったことを表現する方法を工夫すれば、学ぶ喜びを味わうことができるだろう。

・絵や図、音読や朗読劇、詩や短歌など⇒読み取ったことを自分なりに表現する。

読み取った内容を表現する際、表整理や付属ワークシート活用といった従来の方法に依るのではなく、指導者が表現方法の工夫を図ることで、児童の豊かな表現につなげたり、学習を楽しんだりできるようにする。その際、ゴールの姿（表現物）を提示し、児童が学びの成果を具体的にイメージしながら表現していけるようにしていく。

- ・教師のモデル提示：教師自身が豊かな表現を行い、児童の具体的な手本となる。
- ・肯定的フィードバック：児童の表現を受け止め、よさを認めることで、自信を持って表現ができるようになる。具体的に「どこがよかったのか」「どうすればもっと伝わるか」をフィードバックする。

4 研究組織

